

## 討 論 (5)

# 害虫とネズミの問題について

座 長：石 倉 秀 次 (農林省)

河田(農技研)：望月氏は毒餌として結局何をすすめているのか。

川瀬(石川農試)：報告の中では名をふせているがワルファリン系のものをすすめているのではないか(望月氏はマラヤ派遣中)。

国井(農事試)：望月氏は現在、ネズミの種類と生態との問題に従事していて、毒餌の普及にまではまだ手が回らないようだった。

伊藤(農技研)：ヤソチブス菌は効果ないか。

川瀬：わが国でも現在は使用していないが、マラヤでもヤソチブス菌、ホリドール、有機リン剤の使用にはむずかしい制約がある。

河田：マラヤのネズミの主体は *Rattus* で、ヤソチブス菌はこれには効果がない。

伊藤：マラヤ産種籾または玄米を輸入する場合に線虫の侵入する可能性はあるか。また植物防疫所が指定しているウスプルン消毒で可能なのか。

国井：イネネモグリセンチュウを調査したが、心枯れや Ufra などがあるとすると、籾は消毒する必要がある。

座長：防疫所でも検討中である。

河田：IRRI には心枯れが多い由だが…。

田中 (IRRI)：ネマトーダによるといわれる心枯れがある。

藤原(東北大)：施肥によってメイ虫被害が増大するか。

川瀬：North Krian では施肥をすすめているが、新開拓田の二期作にサンカメイ虫が多かった。台湾稲に施肥するとヨコバイが多かった。

座長：Wyatt の報告によると、North Krian 地区では生育の旺盛な稲にメイ虫被害が多かったとされているが、滞在中にもそうであったか。

湖山(東北農試)：そのとおりである。

川瀬：たしかに800ガンタン/エーカーの収量のところ

ろでは、被害茎率が80%というところもあった。

馬場(農技研)：品種間に耐メイ虫性の差はないか。また耐メイ虫品種は育成できないか。

湖山：出穂前には差がない。メイ虫に食いこまれてもその被害の少ないということが必要で、そのような品種の出現を望む。

川瀬：Seraup 50 が広く栽培されているのは、メイ虫に強いからといわれている。

川上(北陸農試)：現状では品種育成よりも薬剤防除を一次的に考えた方がよい。

田中：現在の品種の多くについては、初期にメイ虫にやられる方がかえってよいのではないか。

馬場：Malinja はどうか。

川上：くわしいデータはない。

河田：BHC の水面施用は効果がないか。またメイ虫に休眠個体はいないか。

川瀬：BHC の土壌施用を行なったが、48 kg/10a で葉が赤くなり収量が落ちた。12kg の施用ではメイ虫被害は少なかったが収量差は認められなかった。また12kg ですでに魚が死んだ。これはマラヤではひどく知らわれた。水面施用は試験していない。休眠個体については試験してないが、ないように思う。

永松(九大)：農薬の施用で天敵のバランスが崩れないか。

湖山：問題である。とくに卵寄生蜂の寄生率の低下が指摘されている。土壌施用ではその影響がかなり少ないものと期待される。

川口・本岡(京大)：メイ虫防除の経済性についてはどうか。

湖山：実際問題として、経済的にみた場合に農家が使用するのは困難である。

座長：特殊な一例として、デルドリンの撤布で約550ガンタン/エーカーを増収した場合がある。差引き111マラヤドルの利益となる。

松島(農技研) : Penyakit Merah のある種のもの  
と Mentek とは同一ではないかと思う。線虫接種の  
影響については、その時期等についてさらに検討する  
必要はないか。

国井 : オランダ人の実験では、線虫により Mentek  
がでた例もある。接種法については検討する余地もあ  
る。

田中 : Penyakit Merah の被害率は。また2つの  
型のどちらが多いか。黄色化するものはどんな土壤条  
件に発生するのか。

高橋(農事試) : 被害率はよくわからないが、Pen-  
yakit Merah そのものによる減収よりも、それが発  
生する悪条件の方が問題であろう。2つの型は平均し  
て発生する。土壤との関係についてはよくわからな  
い。Mn 欠という人もあるが…。

橋岡(岐阜大) : Penyakit Merah として示された

スライドの中で、病徴がイナズマヨコバエの媒介する  
Orange leaf と称する Virus と思われるのがある。  
Penyakit Merah といわれるものの中には、Virus  
が誤認されている場合がないか。

岡(遺伝研) : 同じくスライドによると、Hoja bra-  
nca の Virus によるものとよく似ている。

田中 : Virus によるものが含まれているように思わ  
れる。

安尾(事業団) : *Indica* の稲はシラハガレ病にかか  
りやすく、Penyakit Merah との関係を明らかにす  
る必要があると思う。

松島・座長 : Penyakit Merah とシラハガレ病と  
は、はっきり区別できる。

高橋 : 排水をよくすることで、Penyakit Merah  
の発生をある程度防止できた例もある。